

野々市市

富樫館跡 とがしやかたあと

野々市市指定文化財（史跡）

富樫館跡は野々市市本町周辺に存在した富樫氏代々の居館跡です。藤原利仁から7代後の家国が「富樫介」を称したのが富樫氏の始まりとされ、康平6年（1063）に野々市に館を築いたといわれています。

平成6年（1994）の発掘調査で室町時代に造られた館を囲む堀跡がみつかりました。館の周囲には家臣団の屋敷や市場、寺院があり、城下町が形成されていました。室町時代後半（約550年前）には市場の一角が再整備され墓地に変わります。跡地は墓地として再整備されたと考えられています。

展示品の錫杖と土師器皿は墓地内にある土坑墓から出土しています。



富樫館の堀跡



土坑墓の検出状況



発掘調査の様子
・堀の幅 6~7m
・堀の深さ 2.5m



遺跡の位置図